

進路指導講座のカリキュラム

—平成15年度進路指導講座の場合—

児玉真樹子・深田博己・中條和光・戸塚唯氏

Curriculum of career guidance seminar

—The case of career guidance seminar in 2003—

Makiko Kodama, Hiromi Fukada, Kazumitsu Chujo, and Tadashi Tozuka

広島大学において開催された平成15年度進路指導講座のカリキュラムと授業内容を紹介し、受講者の授業評価データを分析することによって、次年度に開催される進路指導講座のカリキュラムと授業内容を改善するための手掛かりを得ることが本研究の目的である。評価データを分析した結果、盛り込むべき内容として、進路指導における具体的な施策、企業側の視点や最先端の技術などの話題が挙げられた。また、スケジュールとしては、情報交換のための時間を増やすことへの要望が大きかった。さらに、演習の一部である分散会に関しては、時間を増やすと同時に、少人数化を求める声が多く、改善の余地が見られた。

キーワード：進路指導講座、カリキュラム、改善

0. はじめに

広島大学は、長年にわたり文部科学省、独立行政法人教員研修センターとともに、各都道府県教育委員会・市町村教育委員会等の進路指導担当主事や中学校・高等学校等で進路指導の中核となる教員を対象とする進路指導講座を開講している。中学校、高等学校における進路指導は、学校教育法において、中学校教育の目標の1つとして「社会に必要な職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと」(第36条の2)、高等学校教育の目標の1つとして「社会において果たさなければならない使命の自覚に基き、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な技能に習熟させること」(第42条の2)と定められているように、学習指導や生徒指導と並ぶ重要な教育活動と位置づけられている。

広島大学において開講される講座は、文部科学省の施策の一環として、進路指導の実践の場にあつてその中核を担う教員の資質向上を目的に行われるものである。本報告では、平成15年度に実施された同講座に対する受講者からの評価を基に、カリキュラムや講義・演習の内容に対する改善点を提言する。

1. 進路指導の基本姿勢と講座の位置づけ

1.1. 進路指導の基本姿勢

教育の在り方について、「生きる力の育成」の重要性が指摘されている（文部省，1996）。進路指導は、学習指導要領において、「生徒が自らの生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的に進路指導を行うこと（総則第6の2）」（文部省，1998）とされ、中・高等学校の生きる力の育成に関わる中核的な指導のひとつと位置づけられている。

しかし、教育実践の場においては、常に上記の理念に沿って進路指導が行われてきたわけではない。平成5年（1993年）に、当時の文部省によって中学校の進路指導から業者テストによる偏差値を追放することを求めた通知が出されているように、中学校教育は、高度成長期からいわゆるバブル崩壊の時期まで、ペーパー試験によって測られる学力に偏重した学習指導と偏差値による高校選択といった進路決定の指導に偏してきたと言われている。このような指導の偏りの弊害が指摘され、上述の「生きる力の育成」の重要性の指摘に至っている。さらに、昨今の経済不振や少子化という社会状況の中で、進路指導は本来の理念に立ち返ることが求められている。

進路指導に求められる今日的意義は、以下のようになろう。

① 学力向上の方策…生徒に自らの生き方を考えさせ将来展望を持たせることで、内発的な学習意欲を高め、今の生活を充実させる指導となる。

② 進路の多様化への対応…進路指導は、「個々の生徒の能力・適性等の発見と開発を前提としつつ、彼らが自主的に進路の選択をし、やがて自己実現を達成していく可能性の発達を図る」（文部省，1994）ものであり、教育改革の中で進められる学びのコースの多様化・複線化に対応する指導となる。

③ 若年者の就職難への対応…産業構造の変化や経済の不振によって新規卒者の就職難もたらされている。また、求人数が減少する一方で、若者の勤労観や職業観の未熟さ、職業人としての基礎的資質・能力の低下も問題となっている。職業発達を支援する本来の進路指導に立ち返ること、現下の厳しい雇用情勢に備える指導となる。

上記にまとめた意義のうち、③に掲げた指導については、小、中、高等学校が連携して進めるキャリア教育の推進としてますますの充実が求められており（文部科学省，2004）、進路指導はその中核と位置づけられている。

以上のような進路指導の今日的意義にかなう指導を行う上で、進路指導に当たる教員に対しては一人一人の資質の向上が求められている。ことに進路指導主事のように全校的な進路指導やキャリア教育の取り組みにおいてその主軸となる教員については、カリキュラム開発や地域の企業や関係機関・保護者との協力体制の確立、キャリア・カウンセリングの力量など、教育現場における教師個人個人の経験のみでは対処できない課題も多く課せられることになる。

1.2. 講座の位置づけ

進路指導講座は、中学校、高等学校において進路指導に関して指導的立場にある教員等の資質向上を図るために文部科学省の教員の資質向上という施策の一環として行われるものである。進路指導の理念や理論、方法などに関する講義、採用側企業との情報交換を通して参加者の資質の向上を図る。また、各県各校の実践を持ち寄って行われる演習を通して、各自の実践を自己評価するとともに今後の改善に資する情報を得ることができる。

2. 進路指導講座の概要

2.1. 進路指導講座実施要項

2.1.1. はじめに

平成 15 年度進路指導講座は、文部科学省、独立行政法人教員研修センター、筑波大学、広島大学の主催で開催された。対象となる都道府県は東西で二分され、東日本地区 1 都 1 道 21 県については筑波大学を会場とし、西日本地区 2 府 22 県については広島大学を会場として、講座は実施された。東日本地区では、平成 15 年 6 月 16 日（月）から 6 月 20 日（金）まで、西日本地区では、平成 15 年 6 月 2 日（月）から 6 月 6 日（金）までの 5 日間の日程で開催された。本報告は、西日本地区で開催された講座に関するものである。

2.1.2. 講座の趣旨

「平成 15 年度進路指導講座実施要項」によると、進路指導講座は次のような目的のもとで開催された。

「各都道府県教育委員会・市町村教育委員会等の進路指導担当主事及び中学校・高等学校・中等教育学校の進路指導主事等に対して、進路指導に必要な専門的知識と技術を習得させ、各都道府県及び各学校における進路指導の中核となる者として資質の向上を図り、もって中学校・高等学校及び中等教育学校における進路指導の充実に資するものとする。」

2.1.3. 講座の目的

同様に、実施要項によると、進路指導講座は次のような趣旨で実施された。

「現在、中学校においては、生徒の能力・適性、興味・関心、将来の進路希望等を踏まえ、進学しようとする高等学校の特色や状況等を生徒が十分理解した上で主体的に進路を選択・決定することのできる能力・態度の育成が強く求められている。

また、高等学校においては、こうしたことに加え、雇用環境の変化や高等教育の改革及び入学者選抜の改善等の進展に的確に対応するとともに、卒業者の早期離転職が高水準で推移していることや大学等卒業者を含めた新規学卒者の無業者等の割合が増加していること等を踏まえ、望ましい職業観・勤労観の育成を図り、生徒が生涯にわたる自己実現を図っていくことのできる能力・態度を育成することが強く求められている。

このような課題に応え、中学校・高等学校及び中等教育学校における進路指導の改善充実を進めるためには、進路指導の指導的立場にある教員等の資質向上を図ることが極めて重要であり、本講座はこうした施策の一環として実施するものである。」

2.2. 受講者

2.2.1. 受講資格

進路指導講座の受講資格は、次の4つの職のいずれかに該当する者という指定があるものの、校長、教頭、教員の参加も差し支えないとして認められた。ただし、受講者は、全日程への参加を求められた。

- ① 都道府県教育委員会及び市町村等教育委員会の進路指導担当指導主事
- ② 中学校の進路指導主事またはこれに準ずる者
- ③ 高等学校の進路指導主事またはこれに準ずる者
- ④ 中等教育学校の進路指導主事またはこれに準ずる者

受講人員は、各都道府県から5名（中学校3名、高等学校2名）で、西日本地区では120名となっているが、受講者数は府県によってバラツキがあるのが実情であった。なお、受講者の推薦は、各都道府県教育委員会において行い、各教育委員会は、都道府県内の附属中学校・高等学校・中等教育学校をおく国立大学及び知事部局と連絡の上、国立及び私立の中学校・高等学校・中等教育学校の参加についてもとりまとめることになっていた。そして、独立行政法人教員研修センターは、各都道府県教育委員会から推薦のあった者のうちから受講者を決定した。

2.2.2. 受講者とその内訳

24府県からの受講者は、中学校教諭が43人、高等学校教諭が42人、教育委員会（主任）指導主事が9人、の合計94人であった。府県別の受講者の内訳を表1に示す。

3. 進路指導講座のカリキュラム

3.1. 講座内容

平成15年度進路指導講座の内容は、進路指導に関する講義と演習を中心にカリキュラムが組まれており、このほかに、協議、資料交換、自主的交流の時間が設けられた。このうちの協議は、講座の総括の役割を担った。また、資料交換では、受講者全員に講座初日に提出が義務づけられている「わが校の進路指導」という題目の実践報告に基づく情報交換によって、他校の実践に触れる機会を提供した。

1.5時間の講義が6科目と1時間の講義が3科目の合計9科目12時間の講義が用意された。また、5.25時間の演習が1科目、3時間の演習が2科目、2時間の演習が1科目の、合計4科目13.25時間の演習が用意された。そして最後に1時間の協議が設けられた。これらの講義・演習題目、配当時間及び担当講師・助言者を表2に示した。

なお、進路指導講座の日程表を表3に示した。

3.2. 講義科目とその内容

9科目の講義内容は、「平成15年度進路指導講座講義要項」によると、以下のとおりであった。

3.2.1. 講義1：現代の青少年と教育の課題

- 0. はじめに
- 1. 現代の青少年の状況
 - (1) 夢・希望喪失層の増加
 - (2) 学ぶ意欲・働く意欲の衰退
 - (3) 現実志向・個人志向派の増大
- 2. 今日の日本の学校教育改革
 - (1) 画一型から自由型へ
 - (2) 改革の実際
 - (3) 改革の促すもの
- 3. 教育改革の課題－自由型への対応
 - (1) 生き甲斐を感じる生き方

表1 受講者の内訳

		中学校 (教諭)	高等学校 (教諭)	教育委員会 (指導主事)	小計
近畿地方	三重県	3	1	0	4
	滋賀県	1	2	1	4
	京都府	2	3	0	5
	大阪府	3	2	2	7
	兵庫県	0	1	2	3
	奈良県	1	1	0	2
	和歌山県	2	3	1	6
	小計	12	13	6	31
中国地方	鳥取県	3	1	0	4
	島根県	2	2	1	5
	岡山県	3	2	0	5
	広島県	3	7	0	10
	山口県	2	1	1	4
		小計	13	13	2
四国地方	徳島県	1	1	0	2
	香川県	1	1	0	2
	愛媛県	2	2	1	5
	高知県	1	2	0	3
		小計	5	6	1
九州・沖縄地方	福岡県	2	1	0	3
	佐賀県	1	1	0	2
	長崎県	2	1	0	3
	熊本県	2	1	0	3
	宮崎県	1	2	0	3
	大分県	2	1	0	3
	鹿児島県	2	1	0	3
	沖縄県	1	2	0	3
		小計	13	10	0
	計	43	42	9	94

表2 各講義・演習の内容

	講義・演習	配当時間	担当講師・助言者
講義1	現代の青少年と教育の課題	1.5時間	主催大学
講義2	教育改革の進展とキャリア教育の推進	1.5時間	文部科学省
講義3	中・高等学校卒業者の進路状況と進路指導の課題	1.5時間	文部科学省
講義4	企業が求める人材	1時間	企業
講義5	産業・経済の構造変化等の現状と課題	1.5時間	主催大学
講義6	小・中・高等学校の連携	1時間	主催大学
講義7	科学技術の発達と人材育成, その現状と課題－テクノロジー利用と障害の視点から－	1時間	主催大学
講義8	進路相談の理論と方法	1.5時間	主催大学
講義9	青年期の発達課題と進路指導	1.5時間	主催大学
演習1①	計画的・組織的な進路指導の実践－全体会(実践発表)－	1時間	文部科学省・主催大学
演習1②	計画的・組織的な進路指導の実践－第1・2・3. 4・5分散会－	2.75時間	文部科学省・主催大学
演習1③	計画的・組織的な進路指導の実践－全体会(分散会報告・協議)－	1.5時間	文部科学省・主催大学
演習2(中学)	保護者・地域とともに進める進路指導の実践	2時間	主催大学
演習2(高校)	「産業社会と人間」の実践	2時間	文部科学省
演習3	進路相談－カウンセリングの実際・その1	3時間	主催大学
演習4	進路相談－カウンセリングの実際・その2	3時間	主催大学
協議	研修の成果と今後の課題	1時間	主催大学

(2) 基礎学力の保証

(3) 教育的競争原理の確立

(4) 教育セーフティネットの構築

4. おわりに－家庭・地域・企業との連携

3.2.2. 講義2：教育改革の進展とキャリア教育の推進

1. 教育改革の進展と進路指導

(1) 教育改革の進展

(2) 教育改革の基本方向 個性を重視した多様で柔軟な教育の推進

① 学校教育法の一部改正

② 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正

③ 「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」

(3) 都道府県の動向

表3 進路指導講座の日程表

	6月2日	6月3日		6月4日	6月5日	6月6日
9:00	受付	演習2 (中学)	演習2 (高校)	演習1③	演習3	講義9
9:30	開講式 オリエンテーション					
10:00						
10:30	講義1					
11:00				講義5		協議
11:30		演習1①				閉会式
12:00						
12:30						
13:00	講義2	演習1②		講義6	演習4	
13:30						
14:00						
14:30				講義7		
15:00	講義3					
15:30						
16:00				講義8		
16:30	資料交換	講義4			自主交流	
17:00						

2. 学習指導要領における「進路指導」

- (1) 進路指導とは何か
- (2) 今回の学習指導要領改訂の要点
 - ① ガイダンスの機能の充実
 - ② 啓発的体験学習の推進
 - ③ 学業生活の充実と進路指導の一体化
 - ④ 「総合的な学習の時間」

3. キャリア教育の推進

- (1) 「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」(調査研究報告書)
- (2) 「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議」

3.2.3. 講義3：中・高等学校卒業者の進路状況と進路指導の課題

1. 高校生の進路状況と進路をめぐる環境の変化
 - (1) 高校生の進路状況の変化
 - ① 就職をめぐる状況・・・かつてない厳しい就職状況
 - ② 進学をめぐる状況
 - ③ 就職も進学もしない者をめぐる状況
 - (2) 進路をめぐる環境の変化
 - (3) 行政，経済界の動向
2. 進路指導の改善・充実に向けた課題
 - (1) 進路指導に対する正しい認識の共有
 - (2) 指導内容・方法等の改善・工夫
 - (3) 計画的・組織的な進路指導の展開
 - (4) 産業・経済社会の現実についての的確な情報提供
3. 児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進
 - (1) 職業的（進路）発達諸能力の育成
 - (2) 職業観・勤労観を育むための学習プログラムの枠組み（例）
 - (3) 進路指導改善の視点 ⇒ キャリア教育の推進
- 3.2.4. 講義 4：企業が求める人材
 1. はじめに
 2. 企業を取り巻く環境の変化
 - (1) 「重厚長大」から「柔効超台」の時代
 - (2) 「スピード」の時代
 3. 企業が求める人材
 - (1) 企業が求める「ものの見方・考え方」
 - (2) 企業が求める「能力」
 - ① コミュニケーション力
 - ② 創造力
 - ③ 挑戦力
 4. 終わりに
- 3.2.5. 講義 5：産業・経済の構造変化等の現状と課題－最近の雇用環境と企業が求める人材－
 0. はじめに－話題の視点
 - (1) 21世紀・主人公の課題をどう考えるか
 - (2) 初・中・高等教育と社会・企業との連携
 1. 環境変化と構造変化
 - (1) 経済環境の変化
 - (2) 産業構造の変化
 - (3) 経済・産業のサービス化・ソフト化

2. 最近の雇用環境

- (1) 社会・企業環境
- (2) 雇用環境

3. 企業が求める人材—たくましく生きる

- (1) 「指示待ち」から「課題解決」へ
- (2) 「HOW」から「WHAT」へ
- (3) 「学び」から「学び方の学び」へ
- (4) ビジョンと行動—「イチローがいっぱい」「世界に一つだけの花」

4. 最後に—次世代育成力

3.2.6. 講義 6：小・中・高等学校の連携

1. 小・中・高等学校連携の理念

- (1) 学校段階間のアーティキュレーション
- (2) 共同の可能性

2. 連携の実践例

- (1) 総合学習としての取り組み
- (2) 地域への広がり
- (3) スポーツ指導での連携
- (4) その他の事例

3. キャリア・エデュケーションとしての連携

- (1) 大学との連携
- (2) 「職業教育」の限界
- (3) 総合的なキャリア形成に向けて

4. おわりに

3.2.7. 講義 7：科学技術の発達と人材育成，その現状と課題

—テクノロジー利用と障害の視点から—

1. 科学技術の発達と障害

- ・ 誰もが持ちうる障害
- ・ 情報化が生み出す格差（デジタルデバイド）
- ・ テクノロジー利用で変わる障害観，自立と社会参加

2. 電子情報支援技術（e-AT）の利用と指導者養成

- ・ 電子・情報技術をベースとした様々な支援機器
- ・ 高い学習・利用ニーズ（教育，福祉・・・）
- ・ 適切な機器選択，アドバイスをを行うことのできる支援者の不足
- ・ 機器やソフトウェアだけでなく，障害観，サポート技法，教育・福祉制度に渡る幅広い内容を体系的に学ぶことのできる研修プログラムの開発と実施
- ・ ビデオ，テキスト，オンライン教材の活用

3. 誰にでも使いやすい技術

- ・ ユニバーサルデザイン：全ての年齢や能力の人々に対し、可能な限り最大限に使いやすいものや環境をつくる
- ・ ウェブアクセシビリティ
- ・ 身近な道具に対する視点（テクノロジーウォッチング）

4. 教育のバリアフリー化

- ・ 障害のある学生の就学支援（広島大学，ワシントン大学 DO-IT，・・・）
- ・ 多様性を活かすことのできる環境を目指して

3.2.8. 講義 8：進路相談の理論と方法

1. 進路指導に求められる課題

- (1) 進路指導理論
- (2) 自己理解
- (3) 職業観
- (4) 就労観

2. 進路指導の相談

- (1) 進路指導の方法
- (2) 個人相談理論
- (3) 集団相談理論

3. 進路相談の展開

- (1) 課題
- (2) 個人相談の留意点
- (3) 集団相談の留意点

4. 討議

3.2.9. 講義 9：青年期の発達課題と進路指導

1. 現代社会における青年期の位置づけと発達課題

- (1) 現代社会における青年期の位置づけ
- (2) 青年期における自己形成
- (3) 青年期の発達課題と進路選択

2. 現代青少年の生活意識と生き方

- (1) 青少年の生活意識
- (2) 青少年の夢・希望・目標
- (3) 青少年の価値観・職業観

3. 青年の将来展望と人生設計

- (1) 青年の現在志向と将来志向
- (2) 目標設定の意味づけと意欲
- (3) 生きる力としてのライフスキル

3.3 演習科目とその内容

4 科目の演習内容は「平成 15 年度進路指導講座実施要項」によると次のとおりであった。

3.3.1. 演習 1

演習 1 のテーマは、中学校・高等学校共通の「計画的・組織的な進路指導の実践」であった。演習 1 は、①全体会（実践発表）、②分散会（協議）、③全体会（分散会報告と協議）の 3 セッションから成り立っていた。

①全体会（実践報告）では、表 4 の「演習 I・II の担当府県割当表」に記載の担当府県の発表者が、指定されたテーマの内容を中心とした「我が校の 3 年間の進路指導とその実践」（A4 版・15 ページ以内・140 部印刷）を参加者全員に配布し、約 30 分間で発表後、発表者との質疑応答、意見交換を行った。②各分散会（協議）では各自が持参した資料等を基に各分散会内で協議を行った。最後に、③全体会（分散会報告と協議）の場で各分散会から報告、協議及び講師による指導・助言を行った。

3.3.2. 演習 2

演習 2 のテーマは、学校別に設定され、中学校が「保護者・地域とともに進める進路指導の実践」、高等学校が『「産業社会と人間」の実践』であった。

表 4 の「演習 I・II の担当府県割当表」に記載の担当府県の発表者は、指定されたテーマの内容を中心とした「我が校の 3 年間の進路指導とその実践」（A4 版・15 ページ以内・140 部印刷）を参加者全員に配布し、約 30 分間で発表した。発表終了後、発表者との質疑応答、意見交換及び講師による指導・助言を行った。

3.3.3. 演習 3

演習 3 のテーマは「進路指導－カウンセリングの実際・その 1－」であり、ガイダンス・カウンセリングの初歩的な一般技法を実習した。演習 3 の内容は以下のとおりであった。

1. 本演習のねらい
2. 模擬事例に挑戦
3. MCT（マイクロ・カウンセリング・トレーニング）について

3.3.4. 演習 4

演習 4 のテーマは「進路相談－カウンセリングの実際・その 2－」であり、不登校傾向の生徒に対するガイダンス・カウンセリングの初歩的技法を実習した。演習 4 の内容は「不登校への援助」として、以下の内容を含んでいた。

1. 「理解」の基本
2. 不登校のプロセスに沿った援助のポイント
3. 「難関」を乗り越えるためのポイント

表4 演習Ⅰ・Ⅱの担当府県割当表

		役割 中・高別	担当府県名				
			発表者(資料提出)		司会者	記録者	
演習Ⅰ	計画的・組織的な進路指導の実践	全体会	中学校・高等学校	熊本県(中)	大阪府(高)	沖縄県	山口県
		第1分散会		各自が提出した資料等を 基にグループで協議	鹿児島県	広島県	
		第2分散会			広島県	島根県	
		第3分散会			大分県	鳥取県	
		第4分散会			佐賀県	和歌山県	
		第5分散会			高知県	奈良県	
全体会	各グループの代表が協議 内容等を発表・協議	愛媛県	兵庫県				
演習Ⅱ	保護者・地域とともに進める進路指導の実践	中学校	岡山県	長崎県	香川県	滋賀県	
	「産業社会と人間」の実践	高等学校	京都府	福岡県	徳島県	三重県	

注) 司会者:演習の司会を行う
発表者:演習資料に基づいて研究発表を行う
記録者:演習について記録する

3.4. 協議

進路指導講座の最後に設けられた協議のテーマは、「研修の成果と今後の課題」であり、各演習テーマでの検討・協議事項の要点を各テーマの代表者に発表してもらい、本研修の成果と今後の進路指導上の課題について考えた。まとめに代えて、助言者から「効果的な進路指導を実現する教師の特性」に関する以下のような話があった。

1. 進路指導の効果を考える枠組み
2. 教師の特性と進路指導の効果
3. 指導効果を発揮する教師の特性

4. 受講者の授業評価に関する調査

4.1. 目的

進路指導講座の講義・演習等に対する受講者の評価を把握することによって、次年度以降のカリキュラムや授業内容を改善するための一助とする。

4.2. 方法

4.2.1. 被調査者と調査手続き

平成15年度進路指導講座への参加者94名を対象に、留置法による調査を実施した。93名から回答があり、1名が無回答であった。本研究では93名の回答の分析を中心に進める。加えて、担当校(中学、高校)別に実施された演習において、どちらの演習に参加したかによって、中学担当者(44名)、高校担当者(43名)、両方の演習に参加したと回答した者をその他(6名)と分類し、中学担当者と高校担当者間の回答を比較する。なお、中学担当者と高校担当者の比較結果に関し

ては、有意差ないしは傾向差のみられる箇所についてのみ触れる。

4.2.2. 調査内容

講座全体に対する評価として、講座全体の充実度、内容の適切性、講座の開催期間、開催時期について調査した。講座全体の充実度に関しては「大変充実していた」(3点)、「おおむね充実していた」(2点)、「あまり充実していなかった」(1点)の3段階で、内容の適切性に関しては「大変適切であった」(3点)、「おおむね適切であった」(2点)、「あまり適切ではなかった」(1点)の3段階で評定させた。開催期間に関しては「適当である」「長い」「短い」の3択で、開催時期に関しては「適当である」「他の時期がよい」の2択で回答させた。

各講義、演習に対する評価に関しては、「内容の新鮮さ」、「内容の具体性」、「講義の分かり易さ」、「資料等提示の工夫」、「総合評価」の5項目について、「大変良かった」(3点)、「概ね良かった」(2点)、「あまり良くなかった」(1点)の3段階で評定させた。

演習資料による情報交換の必要性に関しては、「必要である」と「必要ではない」の2択で回答させた。

講座に対する期待は、「進路指導担当としての幅広い視野の獲得」「これまでの自己の職務の見直し」「多方面で活躍する方の講義」「当面する課題の解決」「より高度な知識・技術の修得」「学校等で体験できない事柄の体験」「他県の教員との交流・情報交換」「文部科学省の講義」の8項目に関して、期待していたものを選択させた。また、期待していたものに対してどの程度達成できたかを「達成できた」(3点)、「概ね達成できた」(2点)、「達成できなかった」(1点)の3段階で評定させた。

最後に、感想と要望について自由記述させた。

4.3. 結果

4.3.1. 講座全体に対する評価

講座全体の充実度、内容の適切性に関する評価を、選択肢ごとに選択者の割合、人数をまとめたところ、表5-1、表5-2のとおりとなり、参加者はおおむね満足しているようであった。なお、各選択肢の選択者の割合は、有効回答数を分母として算出した(以下、選択者の割合は、特に説明のない限り、同様に算出した)。さらに、中学担当者と高校担当者として評価に違いがあるかを確認するため、講座全体の充実度、内容の適切性に関する評価を数値化した結果、表5-3のとおりとなった。それぞれの得点に関して中学担当者と高校担当者でt検定を行ったところ、いずれも有意差は見られなかった。

講座の開催期間と開催時期に関する評価結果は表6のとおりとなった。開催期間に関しては、適当であると答えた参加者の割合が最も高く、次いで長いと答えた割合が高くなった。次に、中学担当者と高校担当者で評価に差があるかを確認するため χ^2 検定を行ったところ、2群の間に差は見られなかった。一方、開催時期に関しては、全体としては適切であると答えた割合の方が多かった。しかし、中学担当者と高校担当者で別々に割合を算出したところ、中学担当者では適当であると答えた割合が高かったが(72%)、高校では適当とする者の割合(52%)と他の時期を希望する者の割

表 5-1 講座全体の充実度に関する評価

	大変充実して いた	おおむね充実 していた	あまり充実して いなかった	全体
割合	28.1%	70.8%	1.1%	100.0%
<i>n</i>	25	63	1	89

注1)無回答のデータ(4名)は除外した

注2)割合は有効回答数を分母として算出した

表 5-2 内容の適切性に関する評価

	大変適切で あった	おおむね適 切であった	あまり適切で はなかった	全体
割合	18.2%	78.4%	3.4%	100.0%
<i>n</i>	16	69	3	88

注1)無回答のデータ(5名)は除外した

注2)割合は有効回答数を分母として算出した

表 5-3 講座全体の充実度と内容の適切性に関する評価：得点化による中・高間比較

	全体			中学			高校			その他		
	<i>N</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
講座全体の充実度	89	2.27	0.47	42	2.21	0.47	42	2.29	0.46	5	2.60	0.55
内容の適切性	88	2.15	0.44	41	2.10	0.44	42	2.14	0.42	5	2.60	0.55

注)無回答のデータは除外した

表 6 開催期間と開催時期に関する評価

			全体	中学	高校	その他
開催期間	適当	割合	61.1%	53.5%	69.0%	60.0%
		<i>n</i>	55	23	29	3
	長い	割合	32.2%	34.9%	28.6%	40.0%
		<i>n</i>	29	15	12	2
	短い	割合	6.7%	11.6%	2.4%	0.0%
		<i>n</i>	6	5	1	0
開催時期	適当	割合	63.7%	72.1%	52.4%	83.3%
		<i>n</i>	58	31	22	5
	他の時期がよい	割合	36.3%	27.9%	47.6%	16.7%
		<i>n</i>	33	12	20	1

注1)無回答のデータは除外した

注2)割合は有効回答数を分母として算出した

合(48%)とがほぼ等しくなった。適当と回答する者の割合に関して χ^2 検定を行ったところ、中学担当群が高校担当群より高くなる傾向($\chi^2(1)=3.52, p<.10$)が見られた。

4.3.2. 各講義・演習に対する評価

各講義・演習に対する評価について、選択肢ごとに整理したところ、表 7-1 のとおりとなった。

また、選択した評価段階を数値化してまとめたところ、表7-2のとおりとなった。なお、紙面の都合上、表7-2ではその他の群における数値の掲載は省いた。これらに対する評価得点の最大値が2.94、最小値が1.93であった。上位25%点である2.69点以上を高評価群、下位25%点である2.18点以下を低評価群とした。

講義のうち、全評価項目（内容の新鮮さ、内容の具体性、講義の分かりやすさ、資料等提示の工夫、総合評価）に対して評価が高かったのは、「講義4：企業が求める人材」、「講義7：科学技術の発達と人材育成、その現状と課題－テクノロジー利用と障害の視点から－」であった。一方、全評価項目が比較的低い評価となっていたものは、「講義6：小・中・高等学校の連携」であった。評価

表7-1 講義、演習に対する評価：割合と人数

	内容の新鮮さ			内容の具体性			講義の分かり易さ			資料等提示の工夫			総合評価		
	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
講義1	29.3%	58.7%	12.0%	47.3%	50.5%	2.2%	62.0%	37.0%	1.1%	33.7%	59.8%	6.5%	42.4%	56.5%	1.1%
	27	54	11	44	47	2	57	34	1	31	55	6	39	52	1
講義2	52.7%	40.9%	6.5%	46.7%	40.2%	13.0%	30.4%	48.9%	20.7%	36.7%	48.9%	14.4%	41.3%	45.7%	13.0%
	49	38	6	43	37	12	28	45	19	33	44	13	38	42	12
講義3	52.2%	42.4%	5.4%	40.7%	48.4%	11.0%	31.1%	51.1%	17.8%	37.4%	52.7%	9.9%	37.0%	51.1%	12.0%
	48	39	5	37	44	10	28	46	16	34	48	9	34	47	11
講義4	75.3%	23.7%	1.1%	83.9%	16.1%	0.0%	92.4%	7.6%	0.0%	73.8%	26.3%	0.0%	89.1%	10.9%	0.0%
	70	22	1	78	15	0	73	6	0	59	21	0	82	10	0
講義5	47.8%	48.9%	3.3%	57.0%	36.6%	6.5%	55.3%	41.2%	3.5%	59.8%	36.8%	3.4%	59.8%	38.0%	2.2%
	44	45	3	53	34	6	47	35	3	52	32	3	55	35	2
講義6	39.1%	46.7%	14.1%	29.3%	52.2%	18.5%	34.9%	53.5%	11.6%	23.3%	59.3%	17.4%	33.7%	53.3%	13.0%
	36	43	13	27	48	17	30	46	10	20	51	15	31	49	12
講義7	85.9%	12.0%	2.2%	83.7%	13.0%	3.3%	86.0%	12.8%	1.2%	85.1%	13.8%	1.1%	84.8%	13.0%	2.2%
	79	11	2	77	12	3	74	11	1	74	12	1	78	12	2
講義8	41.3%	52.2%	6.5%	53.8%	37.4%	8.8%	53.5%	37.2%	9.3%	29.1%	55.8%	15.1%	51.1%	42.4%	6.5%
	38	48	6	49	34	8	46	32	8	25	48	13	47	39	6
講義9	44.4%	48.9%	6.7%	61.1%	34.4%	4.4%	54.8%	42.9%	2.4%	36.5%	52.9%	10.6%	51.7%	41.6%	6.7%
	40	44	6	55	31	4	46	36	2	31	45	9	46	37	6
演習1	38.0%	57.6%	4.3%	57.1%	42.9%	0.0%							47.3%	51.6%	1.1%
①	35	53	4	52	39	0							43	47	1
演習1	32.3%	59.1%	8.6%	51.6%	36.6%	11.8%							40.2%	48.9%	10.9%
②	30	55	8	48	34	11							37	45	10
演習1	18.7%	69.2%	12.1%	30.8%	53.8%	15.4%							22.2%	64.4%	13.3%
③	17	63	11	28	49	14							20	58	12
演習2	49.0%	42.9%	8.2%	84.0%	16.0%	0.0%							71.4%	28.6%	0.0%
(中学)	24	21	4	42	8	0							35	14	0
演習2	49.0%	46.9%	4.1%	70.8%	25.0%	4.2%							63.3%	34.7%	2.0%
(高校)	24	23	2	34	12	2							31	17	1
演習3	76.1%	23.9%	0.0%	88.0%	12.0%	0.0%							83.7%	16.3%	0.0%
	70	22	0	81	11	0							77	15	0
演習4	30.4%	62.0%	7.6%	45.2%	50.5%	4.3%							37.0%	58.7%	4.3%
	28	57	7	42	47	4							34	54	4
協議	34.6%	57.7%	7.7%	53.8%	42.3%	3.8%							50.6%	45.5%	3.9%
	27	45	6	42	33	3							39	35	3

注1) 上段は割合、下段は人数を表す

注2) 評価のAは「大変良かった」、Bは「概ね良かった」、Cは「あまり良くなかった」を表す

注3) 無回答のデータは除外した

注4) 割合は有効回答数を分母として算出した

注5) 各項目で最も選択者数が多かった選択肢に網掛けをした

表7-2 講義、演習に対する評価：得点化による中・高間比較

		内容の新鮮さ			内容の具体性			講義の分かり易さ			資料等提示の工夫			総合評価		
		全体	中学	高校	全体	中学	高校	全体	中学	高校	全体	中学	高校	全体	中学	高校
講義1	M	2.17	2.18	2.12	2.45	2.41	2.44	2.61	2.58	2.63	2.27	2.26	2.23	2.41	2.35	2.42
	SD	0.62	0.58	0.67	0.54	0.50	0.59	0.51	0.50	0.54	0.58	0.58	0.57	0.52	0.48	0.54
	n	92	44	42	93	44	43	92	43	43	92	43	43	92	43	43
講義2	M	2.46	2.48	2.42	2.34	2.34	2.26	2.10	1.93	2.19	2.22	2.19	2.19	2.28	2.23	2.26
	SD	0.62	0.63	0.63	0.70	0.71	0.70	0.71	0.67	0.70	0.68	0.74	0.63	0.68	0.75	0.62
	n	93	44	43	92	44	42	92	43	43	90	42	42	92	43	43
講義3	M	2.47	2.48	2.43	2.30	2.30	2.22	2.13	2.02	2.19	2.27	2.26	2.24	2.25	2.23	2.19
	SD	0.60	0.59	0.63	0.66	0.70	0.61	0.69	0.64	0.71	0.63	0.69	0.58	0.66	0.72	0.59
	n	92	44	42	91	44	41	90	42	42	91	43	42	92	43	43
講義4	M	2.74	2.77	2.70	2.84	2.86	2.81	2.92	2.94	2.90	2.74	2.72	2.77	2.89	2.93	2.86
	SD	0.46	0.42	0.51	0.37	0.35	0.39	0.27	0.24	0.31	0.44	0.45	0.43	0.31	0.26	0.35
	n	93	44	43	93	44	43	79	35	39	80	36	39	92	43	43
講義5	M	2.45	2.50	2.38	2.51	2.48	2.51	2.52	2.49	2.54	2.56	2.55	2.55	2.58	2.56	2.56
	SD	0.56	0.51	0.62	0.62	0.51	0.74	0.57	0.51	0.64	0.56	0.55	0.60	0.54	0.50	0.59
	n	92	44	42	93	44	43	85	41	39	87	42	40	92	43	43
講義6	M	2.25	2.25	2.19	2.11	2.11	2.02	2.23	2.20	2.23	2.06	2.10	1.97	2.21	2.19	2.14
	SD	0.69	0.65	0.74	0.69	0.58	0.78	0.64	0.60	0.70	0.64	0.62	0.67	0.66	0.59	0.71
	n	92	44	42	92	44	42	86	41	40	86	42	39	92	43	43
講義7	M	2.84	2.82	2.83	2.80	2.86	2.74	2.85	2.83	2.88	2.84	2.81	2.88	2.83	2.84	2.81
	SD	0.43	0.39	0.49	0.47	0.41	0.54	0.39	0.44	0.33	0.40	0.45	0.33	0.43	0.43	0.45
	n	92	44	42	92	44	42	86	41	40	87	42	40	92	43	43
講義8	M	2.35	2.20	2.45	2.45	2.37	2.52	2.44	2.29	2.60	2.14	1.98	2.28	2.45	2.30	2.56
	SD	0.60	0.63	0.55	0.65	0.69	0.63	0.66	0.75	0.55	0.65	0.72	0.56	0.62	0.67	0.55
	n	92	44	42	91	43	42	86	41	40	86	42	39	92	43	43
講義9	M	2.38	2.41	2.30	2.57	2.68	2.40	2.52	2.46	2.58	2.26	2.31	2.13	2.45	2.44	2.40
	SD	0.61	0.58	0.65	0.58	0.52	0.63	0.55	0.55	0.55	0.64	0.64	0.62	0.62	0.59	0.67
	n	90	44	40	90	44	40	84	41	38	85	42	38	89	43	40
演習1 ①	M	2.34	2.35	2.30	2.57	2.65	2.50							2.46	2.52	2.40
	SD	0.56	0.57	0.56	0.50	0.48	0.51							0.52	0.55	0.49
	n	92	43	43	91	43	42							91	42	43
演習1 ②	M	2.24	2.23	2.23	2.40	2.43	2.33							2.29	2.35	2.21
	SD	0.60	0.52	0.68	0.69	0.62	0.78							0.66	0.53	0.77
	n	93	44	43	93	44	43							92	43	43
演習1 ③	M	2.07	2.00	2.07	2.15	2.18	2.07							2.09	2.07	2.05
	SD	0.55	0.57	0.51	0.67	0.66	0.68							0.59	0.59	0.58
	n	91	44	42	91	44	42							90	43	42
演習2 (中学)	M		2.40			2.86									2.72	
	SD		0.66			0.35									0.45	
	n		43			44									43	
演習2 (高校)	M			2.42			2.67									2.60
	SD			0.59			0.57									0.54
	n			43			42									43
演習3	M	2.76	2.70	2.81	2.88	2.89	2.88							2.84	2.84	2.84
	SD	0.43	0.46	0.40	0.33	0.32	0.33							0.37	0.37	0.37
	n	92	44	42	92	44	42							92	43	43
演習4	M	2.23	2.18	2.21	2.41	2.45	2.33							2.33	2.26	2.33
	SD	0.58	0.54	0.61	0.58	0.55	0.61							0.56	0.49	0.61
	n	92	44	42	93	44	43							92	43	43
協議	M	2.27	2.16	2.34	2.50	2.51	2.46							2.47	2.43	2.47
	SD	0.60	0.60	0.59	0.58	0.56	0.61							0.58	0.56	0.61
	n	78	37	35	78	37	35							77	35	36

注) 表中の \dots はMが2.18以下のもの、 \dots はMが2.69以上のもの

項目個別に評価が低かった講義をみると、「内容の新鮮さ」については「講義 1：現代の青少年と教育の課題」の評価が低かった。「内容の具体性」の評価項目に関しては、「講義 6：小・中・高等学校の連携」の評価が低かった。「講義の分かり易さ」の評価項目に関しては、「講義 2：教育改革の進展とキャリア教育の推進」「講義 3：中・高等学校卒業者の進路状況と進路指導の課題」の評価が低かった。「資料等提示の工夫」の評価項目においては、「講義 6：小・中・高等学校の連携」「講義 8：進路相談の理論と方法」の評価が低かった。

一方、演習に関しては、全評価項目（内容の新鮮さ、内容の具体性、総合評価）に対する評価が高かったのは「演習 3：進路相談－カウンセリング－の実際・その 1」であった。また、「内容の具体性」「総合評価」の評価項目においては、中学担当者の参加する演習である「演習 2：保護者・地

表 8 演習資料による情報交換の必要性

		全体	中学	高校	その他
必要である	割合	93.3%	90.7%	95.1%	100.0%
	<i>n</i>	84	39	39	6
必要ではない	割合	6.7%	9.3%	4.9%	0.0%
	<i>n</i>	6	4	2	0

注1) 無回答のデータ(3名)は除外した

注2) 割合は有効回答数を分母として算出した

表 9-1 各項目に対する期待と、それに対する達成度

項目	期待していた人数	達成できた	達成度	
			概ね達成できた	達成できなかった
進路指導担当としての幅広い視野の獲得	79.6% 74	59.5% 44	40.5% 30	0.0% 0
これまでの自己の職務の見直し	38.7% 36	55.6% 20	44.4% 16	0.0% 0
多方面で活躍する方の講義	37.6% 35	68.6% 24	20.0% 7	11.4% 4
当面する課題の解決	38.7% 36	8.3% 3	63.9% 23	27.8% 10
より高度な知識・技術の修得	44.1% 41	53.7% 22	41.5% 17	4.9% 2
学校等で体験できない事柄の体験	31.2% 29	65.5% 19	27.6% 8	6.9% 2
他県の教員との交流・情報交換	63.4% 59	27.1% 16	59.3% 35	13.6% 8
文部科学省の講義	39.8% 37	56.8% 21	37.8% 14	5.4% 2

注1) 期待していたと回答し、かつ達成度を回答していたデータを有効回答として利用した

注2) 上段は割合、下段は人数を表す

注3) 期待していた人数の欄の割合は、回答者数を分母にして計算した

注4) 達成度の欄の割合は、期待していた人数を分母にして計算した

表9-2 各項目に対して期待していた人数と、それに対する達成度得点の平均値 (SD)

項目		全体	中学	高校	その他
進路指導担当としての幅広い視野の獲得	人数	74	38	31	5
	達成度	2.59 (0.49)	2.55 (0.50)	2.65 (0.49)	2.60 (0.55)
これまでの自己の職務の見直し	人数	36	17	16	3
	達成度	2.56 (0.50)	2.59 (0.51)	2.50 (0.52)	2.67 (0.58)
多方面で活躍する方の講義	人数	35	18	14	3
	達成度	2.57 (0.70)	2.50 (0.71)	2.64 (0.74)	2.67 (0.58)
当面する課題の解決	人数	36	17	17	2
	達成度	1.81 (0.58)	1.71 (0.59)	1.82 (0.53)	2.50 (0.50)
より高度な知識・技術の修得	人数	41	18	18	5
	達成度	2.49 (0.60)	2.44 (0.62)	2.56 (0.62)	2.40 (0.55)
学校等で体験できない事柄の体験	人数	29	12	16	1
	達成度	2.59 (0.63)	2.50 (0.80)	2.63 (0.50)	3.00
他県の教員との交流・情報交換	人数	59	29	29	1
	達成度	2.14 (0.63)	2.14 (0.69)	2.14 (0.58)	2.00
文部科学省の講義	人数	37	21	14	2
	達成度	2.51 (0.61)	2.43 (0.68)	2.57 (0.51)	3.00 (0.00)

域とともに進める進路指導の実践」が高い評価となっていた。反対に、全評価項目に対し、評価が低かったのは「演習 1③：計画的・組織的な進路指導の実践－全体会（分散会報告・協議）－」であった。

高校担当者と中学担当者の得点を t 検定で比較した結果、「講義 8：進路相談の理論と方法」に対する「講義の分かり易さ」「資料等提示の工夫」の各評価項目において、高校担当者が中学担当者より有意に高く評価していた ($t(73)=-2.11, p<.05$; $t(79)=-2.13, p<.05$)。その他、「講義 9：青年期の発達課題と進路指導」に対する「内容の具体性」の評価項目では、中学担当者が高校担当者より有意に高く評価していた ($t(75)=2.22, p<.05$)。

4.3.3. 演習資料による情報交換の必要性

演習資料による情報交換の必要性に関しては、表 8 のとおりとなり、90%以上が必要であると回答していた。 χ^2 検定を行ったところ、中学担当者と高校担当者の間に差は見られなかった。

4.3.4. 講座に対する研修前の期待と研修後の達成度

講座に参加するにあたって、期待していたことと、それに対する研修後の達成度をその選択肢別にまとめたところ、表 9-1 のとおりとなった。さらに達成度得点を算出し、中学担当者、高校担当者別に算出したものを表 9-2 に示した。

特に期待していた人数が多かったのは、「進路指導担当としての幅広い視野の獲得」(74 人)と「他県の教員との交流・情報交換」(59 人)であった。一方、研修後の達成度に関しては、「当面する課題の解決」に関して「達成できた」と回答した者が 8.3%と、他と比べて圧倒的に少なく、達成度得点も極端に低かった ($M=1.81$)。次いで「他県の教員との交流・情報交換」に関して「達成できた」と回答した者の割合が低く (27.1%)、達成度得点も低かった ($M=2.14$)。その他の項目は、達成度に大差は無かった（「達成できた」と回答したものの割合が 53.7%~68.6%。 $M=2.49\sim 2.59$)。中学担当者と高校担当者で達成度に差があるかを確認するため、各項目の達成度得点に関して t 検定を

行ったところ、2群の間に有意差は見られなかった。

4.3.5. 講座に対する感想

講座に対する感想では、「勉強になった」「貴重な情報を得られた」「これまでの進路指導活動を見直すことができた」など、当講座に対する肯定的な評価を述べているものが多かった(53人)。特に有用であった講義に関して述べているものもあり、「企業が求める人材」(5人)、「科学技術の発達と人材育成、その現状と課題—テクノロジー利用と障害の視点から—」(2人)などが挙げられていた。参加者間の情報交換が有用であったと述べているものも多かった(7人)。その他、具体的に勉強になった点として、「小・中・高の連携が必要だと感じた」(3人)という感想も見られた。

一方、批判の声も多く見られた(23人)。具体的には、「内容が盛りだくさんで、具体性に欠ける講座が多かった」「理論的な講義はあまり必要がない」「現場の課題に沿わないものがあつた」などの内容に関するもの(11人)、「分散会での討議の時間が短すぎた」「分散会の人数が多すぎる」といった分散会のあり方に関するもの(5人)などがあつた。また、特に評価の低かつた演習1③に関する批判として「分散会の討議内容から導かれたものをききたかつた」「分散会報告は必要ない(同じテーマで話し合っているので報告は意味がない)」という意見が見られた。

4.3.6. 講座に対する要望

講座に対する要望を自由記述させた結果、最も多かつたのは、研修の内容に関する要望であつた(49人)。そのうち特に人数が多かつたのは、「現場につながるもの」「実践例」などの、実際にどのようなすればよいのかという内容を盛り込んで欲しいという要望(13人)と、情報交換の場を増やして欲しいという要望(11人)であつた。その他、盛り込んで欲しい内容として、進路指導に関連する社会的状況(経済動向、就職状況など、5人)、進路指導に関する基礎知識(3人)なども挙げられた。また、当講座での演習における討議の場に関して「話が深まらなかつたので、あらかじめ討議の課題を洗い出しておいてほしい」といった声も多く見られた(8人)。情報源に関する要望としては、企業からの情報を求める声ももっとも多く(5人)、文部科学省(2人)、社会人や大学生(3人)の話が聞きたかつたという声もあつた。

次いで、タイムスケジュールに関する要望が多かつた(27人)。そのうち最も多かつたのが、演習の時間を増やして欲しいという要望であつた(13人)。

また、グループ分けの仕方に関する要望も多く見られた。これは大きく、人数に関する要望(人数を減らして欲しい、10名程度にして欲しいなど、14人)と、グループ分けの基準に関する要望(校種別(たとえば、高校総合学科設定校など)にして欲しいなど、9人)とに分けられた。

その他、「講義担当者に、研修全体の流れの中で自分の講義の占める役割や狙いを理解してもらいたい」「運営準備や担当者間のすりあわせを十分して欲しい」「講義の始まり・終わりに、指示を出す担当者をつけて欲しい」等といった運営方法に関する要望(10人)、講師からの資料に関する要望(主に、パワーポイント用の資料など、配布しなかつた資料が欲しかつたというもの、5人)、参加者が提出する演習資料に関する要望(主に、そのテーマに関するもの、5人)、交流会に関する要望(主に、交流会の日程に関するもの、5人)、実施時期に関する要望(5人)があつた。

5. 受講者の授業評価調査結果からの提言

当講座全体に対する参加者の評価は、受講者がおおむね満足していることを示している。しかし、実施された講義、演習を個別に見てみると、改善すべき点がいくつか見受けられる。

まず、評価の低かった講義や演習に対する改善点について考察する。評価の低かった講義のうち、「講義6：小・中・高等学校の連携」に関しては、「小・中・高の連携が必要だと感じた」という感想もみられ、進路指導において重要な内容の一つと捉えることができる。当講座は「内容の具体性」と「資料等提示の工夫」に対する評価が低かったため、早急にこれらの点に対して改良をする必要があるであろう。演習のうち、特に評価の低かった「演習1③：計画的・組織的な進路指導の実践－全体会（分散会報告・協議）－」に関しては、「分散会報告は必要ない（同じテーマで話し合っているため報告は意味がない）」という声もあり、今回は3セッションから成っていた演習1の構成そのものについても検討する必要があるかもしれない。また、「演習1②：計画的・組織的な進路指導の実践－第1・2・3・4・5分散会－」については「時間を増やして欲しい」「人数を減らして欲しい」等の要望が多く寄せられており、改善の余地がある。

中学校担当者、高校担当者为評価に差があった「講義8：進路相談の理論と方法」「講義9：青年期の発達課題と進路指導」に関しては、中学校もしくは高等学校のどちらかに重点が置かれた内容だったのかもしれない。その点については見直す必要があるだろう。

また、今回の調査結果より、進路指導講座に求められている内容が推測できる。盛り込むべき内容としては、主に2点が挙げられる。一つは、要望に多く挙げられていた、「現場につながるもの」「実践例」などの、実際にどのようにすればよいのかという内容である。このような内容の必要性は、当講座の受講による「当面する課題の解決」に関する達成度が他と比べ極端に低かったことから推測できる。もう一つは、企業側の視点や最先端の技術などの話題をさらに充実させることである。というのは、各講義に対する評価の結果で、「講義4：企業が求める人材」、「講義7：科学技術の発達と人材育成、その現状と課題－テクノロジー利用と障害の視点から－」が特に評価が高く、自由記述欄でも、企業側からの話を増やして欲しいという要望や、企業および技術関連の話が高く評価していた感想が見られたためである。

また、スケジュールとしては、情報交換の時間を増やす必要があるであろう。この必要性は、次の評価結果から推測される。まず、当講座に期待していたこととして「進路指導担当としての幅広い視野の獲得」「他県の教員との交流・情報交換」が多く挙げられていたが、そのうち「他県の教員との交流・情報交換」に対しては、達成度に関する評価が低かった。また、自由記述欄においても、情報交換の場を増やして欲しいという声が多く、当講座で他府県の情報を収集できる場であった分散会に関しても時間を増やして欲しいという声も多かった。また、グループ分けに関する要望も多く寄せられていたが、これらも、グループに分かれての効率的な情報交換を期待していると推測できる。これらより、効果的な情報交換の場を提供することが進路指導講座に求められていることが分かる。

最後に、他校の情報や、現実問題の対処方法に直結する講義内容を求める声が多かったことから、

教育現場で進路指導にあたっている教師たちの苦悩が垣間見られた。前述のとおり，現在の進路指導においては，教育現場における教師個々人の経験のみでは対処できない課題も多くあり，当講座も重要な役割を担うものとなるであろう。そのためにも，現場のニーズにあった講座になるよう，さらなる改善が必要である。

引用文献

- 文部省 1994 中学校・高等学校進路指導の手引 -中学校学級担任編- (三訂版) 日本進路指導協会
- 文部省 1996 21世紀を展望した我が国の教育の在り方について (中央教育審議会第一次答申)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/12/chuuou/toushin/970606.htm
- 文部省 1998 中学校学習指導要領 (平成10年12月) 大蔵省印刷局
- 文部科学省 2004 キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書-児童生徒一人一人の勤労観，職業観を育てるために- http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/16/01/f_04012801.htm